

## 平成24年度 学校教育指導の重点

一人一人が輝く京田辺っ子の育成

京田辺市の学校教育は、質の高い学力、豊かな感性や情緒、たくましく健やかな体をはぐくむなど、知・徳・体の調和のとれた幼児児童生徒の育成を図り、人間の生涯にわたる成長の基礎を培うことを目指すものである。そのため、京田辺市の伝統や文化を継承・発展し、一人一人が個性を輝かせ、未来を創造していく子どもをはぐくむ教育の推進に努める。

また、各学校・園においては、学習指導要領や指導の重点を踏まえ、校園長主導の体制の下、学校・園経営方針を明確にした創意ある教育活動を展開する。

### 基礎・基本の定着を図り学力の充実・向上と個性を伸ばす教育の推進

#### 1. 学習指導

##### 目標

個に応じた指導を積極的に進めることにより基礎的・基本的な内容を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむとともに、学習意欲の向上や言語活動の充実を基盤として、学力の充実・向上を目指す取組を組織的に進める。

##### 努力点

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善を進めるとともに、指導内容の精選と重点化を図り、授業時数を確保しながら綿密な指導計画に基づいて指導する。
- (2) 個々の学習状況を的確に把握・分析し、個に応じた指導を積極的に進め、指導方法や指導体制の工夫改善に努める。
- (3) 学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価を一層重視するとともに、児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、きめ細かな指導とその改善に生かす。
- (4) 知的活動やコミュニケーション活動の基盤となる「ことばの力」を発達段階に応じて育成する取組の充実を図る。
- (5) 家庭と連携した、学習習慣の定着に向けた取組の充実に努める。
- (6) 司書教諭や学校図書館司書などすべての教職員が連携して、読書意欲の向上や読書習慣の形成等に努めるとともに、学習・情報センターとしての学校図書館の機能の充実を図る。
- (7) 特別活動の実施に当たっては、望ましい集団活動や体験を通して、心身の調和のとれた発達を図るとともに、ガイダンスの機能を生かして個性の伸長に努める。

## 2. 進路指導

### 目標

進路指導を人間としての在り方生き方にかかわる指導ととらえ、学ぶこと働くことの喜びと大切さを体得させ、将来への目的と展望をもって、自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を育成する。

### 努力点

- (1) 校内外での幅広い学習経験や啓発的経験を得させる活動を充実させ、自己の特性に気付かせるとともに、望ましい職業観、勤労観を身に付け、将来への希望とその実現への意欲を高める指導に努める。
- (2) 校内の進路指導体制を確立し、家庭や関係諸機関との連携のもとに、組織的・計画的・継続的な進路指導を推進するとともに、キャリア教育に関する指導力の向上に努める。
- (3) 進路希望の実現のため、学力の充実・向上と規律ある学校生活の実践に努め、計画的な相談活動を通して自己理解を深めさせ、進路に対する目的意識の向上に努める。
- (4) 適切な進路情報を幅広く収集整理し、組織的な進路事務を通して個に応じた進路指導に努める。

## 3. 特別支援教育

### 目標

発達障害を含め、障害のある幼児児童生徒が、心豊かでたくましく生きる力を培い、自立し社会参加する資質や能力を育てるための、個々の教育的ニーズに応じた適切な教育に努める。

また、すべての幼児児童生徒に、障害のある人への正しい理解と認識を育てるための計画的な指導に努める。

### 努力点

- (1) 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会など、校内組織の充実を図るとともに、特別支援学校の地域支援センターなどを積極的に活用する。
- (2) 「個別の指導計画」による個に応じた指導を推進し、生涯にわたって学び続ける意欲と能力の伸長を図るため、保護者との共通理解を図り効果的な指導を進める。
- (3) 発達障害などを含む通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導に努める。
- (4) 幼稚園、小学校、中学校間や関係機関及び保護者と連携し、相談を重視した就・修学の指導や進路指導の充実に努める。
- (5) 交流及び共同学習を充実し、正しい理解と認識を深める指導の充実に努めるとともに保護者や地域社会の理解を深めるための啓発に努める。

## 4. 幼稚園教育

### 目標

幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、幼児の自発的な活動である遊びを中心とした総合的指導を通して、生涯にわたる人格形成の基礎を培う。

### 努力点

- (1) 幼稚園教育要領の趣旨に沿い、教育期間や幼児の生活体験、発達の過程などを考慮し教育課程の編成を行うとともに、体験活動を生かした幼児期にふさわしい活動を展開し、社会生活上のルールや道徳性を必要に応じて身に付けるように援助する。
- (2) 生涯にわたる生活や学習の基盤となることに配慮し、個々の幼児の特性や発達に応じた環境構成と指導方法の工夫に努める。
- (3) 障害のある幼児一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うとともに、家庭や小学校などとの連携を図り、適切な就学指導に努める。
- (4) 体験入学や交流の機会を活用するとともに、小学校につながる接続期の指導の充実に努め、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図る。
- (5) 地域における「子育て支援」を担う教育機関としての役割を認識し、保護者及び関係諸機関等との相談活動や情報交換、保護者同士の交流などの取組を積極的に進める。

## 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

### 1. 道徳教育

#### 目標

生命の尊重や他人を思いやる心など豊かな心の育成のため、幼児児童生徒の実態に即し、教育活動全体を通じて道徳性を養うための指導を推進する。特に、道徳の時間の指導を充実させ、各学級で道徳的実践力の育成に努める。

#### 努力点

- (1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実に努める。
- (2) 道徳教育の全体計画、学級における指導計画及び道徳の時間の年間指導計画を学校行事や総合的な学習の時間等と関連させ、指導内容の改善と充実に努め、指導の徹底に努める。
- (3) 道徳の時間では、体験活動を生かす工夫や「京の子ども 明日へのとびら」等の資料の活用、地域の人々の協力などにより、内面に根ざした道徳性の育成を図る。
- (4) 児童生徒の心に響き、道徳的価値の自覚を促す指導方法についての研修を深め、授業の充実に努める。

- (5) 授業公開などを通して、学校における道德教育に対する保護者・地域社会の理解を一層深めるよう努める。
- (6) 家庭や地域社会と一体となって、好ましい人間関係、伝統や文化の継承、豊かな感性や社会性などを培う道德的実践を促す環境づくりに努める。

## 2. 人権教育

### 目標

学校教育活動全体に人権教育を適切に位置付け、基本的人権や同和問題などさまざまな人権問題についての正しい理解と認識の基礎を培う。

### 努力点

- (1) 人権問題に関する学習を計画的に進め、すべての人の基本的人権を尊重する心をはぐくむ。
- (2) 児童生徒の学力の向上を図り、修学保障に努めるとともに、多様な進路を主体的に選択できる力を身に付けさせる。
- (3) 人権尊重を踏まえた教育活動を進めるため、研修を日常的・系統的に行い、認識の深化と指導力の向上に努める。
- (4) 校種間連携や交流を深め、発達段階に即した体系的・計画的な人権教育を推進する。
- (5) 人権問題の解決を目指すため、関係諸機関との連携を強化し、地域・保護者の深い信頼の下に実践を進める。

## 3. 生徒指導

### 目標

人間の尊厳という観点に立ち、幼児児童生徒の内面理解に努め、個々の課題の解決を図るとともに望ましい集団活動を通して、人間としてよりよい生き方をめざし、実践していく力を育てる。あわせて、校内指導体制を有効に機能させ、校種間・学校間の連携を進め、組織的・計画的な指導を推進する。

### 努力点

- (1) 幼児児童生徒と教職員及び幼児児童生徒相互の心のふれ合いを大切にし、深い信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。
- (2) 児童生徒に目的意識を持たせ、一人一人のよさに着目した指導を通し、存在感・充実感のある学校生活を送らせるための積極的な指導に努める。
- (3) 自然体験活動、ボランティア活動など多様な体験活動を通して、豊かでたくましい心の育成に努める。
- (4) 不登校については、日々の教育相談活動を充実させ、状況に応じて効果的な対応を組織的に行い、未然防止と解決に向けた取組を行う。

また、いじめ問題については、日頃から児童生徒が発する心のサインを見逃さないよう、いじめの早期発見と早期対応に努める。特に、「ネット上のいじめ」

等の問題に関しては、情報モラルについて指導するとともに、関係機関と連携した迅速かつ適切な対応を図る。

- (5) 学校や社会のきまり、ルールを守ることの意義や重要性について、府教委と連携した「非行防止教室」等を積極的に実施し、児童生徒に考えさせ、規範意識の向上に努める。
- (6) 児童虐待の早期発見に努め、関係機関と連携し、必要な支援を継続して行う。

#### 4. 健康安全教育

##### 目標

自他の生命の尊さを自覚し、生涯にわたって心身ともに健康で安全に生き抜き、危機対応能力を身に付けた児童生徒を育成するため、家庭や地域社会、関係機関との連携を強化し、健康安全教育を組織的・計画的に推進する。

##### 努力点

- (1) 幅広い運動を経験させるとともに、新体力テストの結果をもとに、自己の体力について理解させ、基礎的な体力、運動能力の向上に努める。
- (2) 各種事故災害の実態を教材化し、危機対応能力を高め主体的に安全な生活を営む正しい判断力と実践力を養う。また、日常的な安全管理に加えて、自転車の安全な利用の促進を含む交通安全指導の徹底と地震防災安全教育の充実を図る。
- (3) 危機管理体制を整備・充実し、学校独自の「危険等発生時対処要項」に基づく実効性のある研修や訓練を実施するとともに保護者・地域社会・関係機関等と連携して児童生徒の安全確保を図る。併せて、危険等発生時における心のケアの充実に努める。
- (4) 児童生徒の実態と発達段階に応じた性に関する教育の指導内容を工夫し、保護者等の理解を得ながら適切に推進するとともに、喫煙・薬物乱用などの防止や感染症及び生活習慣病など現代的健康課題の対応を含む保健教育を推進する。
- (5) 食に関する正しい理解や望ましい食習慣の育成など食育を推進するため、食に関する指導計画に基づき、教科横断的な指導に努める。

### 社会の変化に対応する教育の推進

#### 1. 国際理解教育

##### 目標

国際感覚を身に付けた児童生徒の育成を目指し、我が国の文化や伝統を尊重するとともに、異文化を理解し尊重する態度や共に生きていく資質や能力を育てる。

##### 努力点

- (1) 国際社会に生きる日本人としての基礎的資質を養うため、各教科等の指導内容を踏まえ、体験的な学習や課題学習などを取り入れて年間指導計画を確立し、その実践に努める。

- (2) 外国の人々との交流や外国語活動を通して言語や文化を理解させると共に、コミュニケーション能力の素地を養う。
- (3) 帰国児童生徒については、学校生活への円滑な適応を図り、海外で身に付けた能力や特性を生かす指導に努める。

## 2. 環境教育

### 目標

身近な自然や社会の事象に関心を持ち、人々の暮らしと環境とのかかわりについて理解を深め、環境を大切にする生活のしかたや実践的態度や能力を育てる。

### 努力点

- (1) 自然調和型社会、低炭素社会及び資源循環型社会づくりを目指し、地域の実態に応じて環境教育の内容を明らかにし、学校・園の教育活動全体を通して計画的に推進する。
- (2) 自然や社会の中での体験を通じて、身近な問題から環境と自分との関係を考えるを通し、自分なりに問題を見つけてより良い環境づくりのために配慮した生活ができる態度を身につけさせる。

## 3. 情報教育

### 目標

児童生徒の発達段階に応じ、情報活用能力の育成に関する指導を行い、授業におけるICT活用など学校における教育の情報化を通じて総合的・計画的に推進する。

### 努力点

- (1) 教育活動全体を通じて情報活用能力の育成が図れるように、各教科等の学習内容と情報教育の目的や内容との関連付けを明確にした指導計画を作成する。
- (2) 各教科等の指導に当たっては、情報通信ネットワークやコンピュータなどの情報教育機器を積極的に活用して、児童生徒の興味・関心に応じた主体的な学習を展開するなど、指導方法の改善工夫に努める。
- (3) 情報教育を推進する組織体制の整備を進め、情報モラルに関する教育を学校全体として推進する。

|                    |
|--------------------|
| <b>教職員の資質能力の向上</b> |
|--------------------|

## 1. 教職員の使命と責任

### 目標

教職員は、教育公務員としての使命と責任を自覚し、教育関係諸法令を守るとともに、教職に対する愛着と誇りをもち、豊かな人間性、広い社会性及び高い専門性を基盤とした実践的指導力の向上に努めなければならない。

## 努力点

- (1) 教職員は、人間の成長や発達について深い理解と児童生徒に対する教育的愛情を持ち、幼児児童生徒や保護者との信頼関係を確立するとともに、ボランティア活動など広く社会とかかわり学校内外を問わず、幅広い人間関係を築くことによって、自己の人間性を豊かにするように努める。
- (2) 教職員は、広い視野から社会の変化や時代のニーズを的確に把握する感性を持ち、常に意識改革に努め、児童生徒や保護者の多様な価値観に適切に対応するとともに、教職員相互の連携・協働体制の確立を図り、組織としての学校教育力を高めるように努める。
- (3) 教職員は、豊かな見識と専門性に基づいた確かな指導力と自ら学び続ける意欲を持ち、自己の資質能力の向上に努めるとともに、常に組織の一員としての自覚をもち、計画的・継続的な教育実践に取り組み、公教育の推進を目指す。
- (4) 教職員は、自己の健康管理に留意するとともに、幼児児童生徒の生命の安全に対する危機意識を持って勤務することはもとより個人情報にかかる文書等の管理についても慎重にして適切な取り扱いに努める。

## 2. 教職員研修

### 目標

教職員は、職務の遂行に当たって、教育目標の具現化のために、不断の研鑽<sup>けんさん</sup>によって自己の陶冶<sup>とうや</sup>を図るとともに、主体的・組織的な研修を通し、指導力の向上に努め、学校教育への期待に応えるよう努めなければならない。

### 努力点

- (1) 校長は、年間研修計画を策定するとともに、校内研修組織を整備し、教職員の実践的指導力の向上と研修成果の発表の機会の設定に努める。
- (2) 教職員は、京都府教育委員会や京都府総合教育センター及び京田辺市教育委員会が主催する研修に積極的に参加し、指導力量を向上させるとともに、研修成果を校内研修や教育実践に生かすように努める。
- (3) 研究会等は、公教育の推進を目指し、教育委員会との密接な連携のもとに教育水準の向上を図るため、教育課題を踏まえた研究活動を進める。

|                   |
|-------------------|
| 平成24年度 学校教育の実践的課題 |
|-------------------|

## 1. 学力の充実・向上と個性や能力の伸長を図る教育

- (1) 質の高い学力をはぐくむための具体的な取組
  - ・家庭学習の内容検討
  - ・中1振り返り集中学習（ふりスタ）
  - ・言語活動や体験活動の充実
  - ・ICTの活用

- (2) 児童生徒の実態に応じた指導方法の工夫改善
  - ・習熟の程度に応じた指導における教材や展開方法の工夫
  - ・具体の評価規準の作成とその実践・検証

## 2. 新学習指導要領への対応

- (1) 中学校保健体育科における武道・ダンスの必修化への対応
- (2) 「総合的な学習の時間」の指導計画の充実改善
  - ・探求的な学習として充実
  - ・各教科等で身に付けた力との関連付け
- (3) 指導内容の追加・変更に伴う指導計画の見直し及び適切な指導
  - ・小学校外国語活動の充実

## 3. 豊かな人間性とたくましさを育てる教育の推進

- (1) 道徳の時間の充実と指導方法の工夫改善(明日へのとびら等の資料活用)
- (2) 豊かな体験活動の継続と充実(幼稚園キララ体験活動の充実等)
- (3) 不登校児童生徒への学習・生活面の支援と市適応指導教室(ポットラック)との連携
- (4) いじめの早期発見と加害・被害双方の子ども達への丁寧できめ細かな指導
- (5) 運動することの楽しさや喜びを体験させるとともに、体力・運動能力の向上を図るための積極的な取組の推進

## 4. 安心・安全な教育環境づくり

- (1) 教職員の危機管理意識を高め、家庭・地域社会との連携による校内外の危機管理体制を整備・充実(交通安全・不審者・自然災害)
- (2) 幼児児童生徒自らが危機回避能力を身につけることができる指導の工夫(喫煙・薬物被害防止も含む)
- (3) 情報モラルの徹底と保護者への啓発(携帯電話やインターネットによる被害・加害防止について、継続して推進する)

## 5. 教師力、学校力を高め、信頼される学校づくり

- (1) 児童生徒の理解と家庭との連携の強化
- (2) 教職員評価などを活用した教職員の資質向上
- (3) 研修の充実による授業力の向上

市立幼稚園及び小・中学校の教職員並びに教育関係者は、以上に示す京田辺市の教育を推進するため、学校教育にたずさわる使命と責任を自覚し、校・園長を中心に信頼と協調による規律ある指導体制を確立して、その遂行に努め、保護者ならびに市民の信託と期待に応えなければならない。

# 一人一人が輝く京田辺っ子の育成

知・徳・体の調和のとれた幼児児童生徒の育成と、生涯にわたる成長の基礎を培う。  
京田辺市の伝統や文化を継承・発展し、未来を創造していく子どもを育てる。

## 教育の課題

H23府学力診断テストより  
(平成23年4月・10月実施)

- 学力状況
  - ・「言語事項」「数と計算」など基礎的な内容に課題
  - ・学校間の学力差
  - ・活用型の問題に課題
  - ・中2では高得点層が少ない。
  - 学習指導
  - ・学習「好き」が少ない。
  - ・調べ学習や話し合う活動、発表する機会が少ない。
  - ・読書への関心が低い。
  - ・家庭学習の内容・取組
  - その他
  - ・学習の準備などの習慣
  - ・不登校児童生徒
  - ・規範意識
  - ・発達障害等配慮を要する児童生徒の増加
- ↓
- ・園・学校間の接続、連携

## 質の高い学力を目指した授業改善

落ち着いた学習環境づくり

- ・探求する活動や体験活動を位置づけた単元計画の工夫
- ・指導の効果を高めるICT活用
- ・ねらいを明確にした言語活動
- ・学習指導の充実と学力の定着を図る評価の工夫
- ・学習習慣の確立
- ・自尊感情や規範意識を高める心の教育の充実

個に応じた指導の推進

学力向上推進担当を中心とした研究推進体制の確立(再構築)

各校の課題把握・校内研修の充実

## 教育委員会の支援

## 教育資産・施策の活用

中  
連携  
小  
接続  
幼

- 同志社との連携  
学生ボランティア
- ふりスタ  
京都式少人数教育  
まなび・生活アドバイザー
- 教育相談活動  
スクールカウンセラー  
ポットラック  
ことばの教室(2校)
- ICT環境の充実  
自校給食
- 学校図書館司書  
学級運営支援員  
生活介助員
- ボランティア(読書など)  
地域人材の活用  
家庭の支え
- 幼小の隣接した立地  
地域の環境

## 新学習指導要領完全実施スタート

学力の充実・向上

個性や能力の伸長

指導計画と評価  
基準の作成・実践

豊かな人間性の育成

健康や体力の向上

## 信頼を高める学校づくり

教師力の向上・人材育成

授業時数の確保